

排除と差別の社会学〔新版〕

好井裕明 編

2016年9月発売 / 346頁 / 本体2200円+税



編集
担当者
から

「排除」や「差別」というと、自分はそんなことはしないから関係ない、と考える人もいるかもしれません。けれど、日常的に目にするテレビ番組で、マイノリティの人びとをからかうような表現があったり、職場で妊娠を理由に降格されてしまった人がいたり、街中でヘイトスピーチが行われていたり、身近な生活の場で、現に排除や差別は生じています。私たちは、それらを「対岸の火事」として遠ざげるだけでよいのでしょうか。

いくつかの問題については、法的に対処する枠組みも整いつつありますが、それだけでなく、なぜ私たちは差別をしてしまうのか、どうすれば排除や差別のない日常を生きられるのか、そういった問いについても、ぜひ本書を通じて考えてもらえればと思います。

「もしかしたら、無意識に差別をしているかもしれない」存在として自分自身をとらえなおしたとき、世の中はどんなふうに見えてくるでしょうか。(堀)

Index



日常生活にあるさまざまな排除や差別と向き合うための14章。

第Ⅰ部 排除や差別という現象から世の中を考える

- 第1章 排除と差別の社会学を考える
2つの基本
- 第2章 部落差別の今は……？
——「部落」・「部落民」の
表象のゆくえ
- 第3章 「当事者」は
差別や排除を語るのか？
——〈ジモト〉の在日コリアン
とともに感じたこと

第Ⅱ部 個別の問題を手がかりとして

- 第4章 「身体」をあたりまえに
生きるために
——「マタニティ・
ハラスメント」という問題
- 第5章 「ひきこもり」からの問題提起
- 第6章 学校空間における排除と差別
- 第7章 解放の政治から生成の政治へ
——「ゲイ」というカテゴリーの
意味転回

- 第8章 女性カップルの子育て願望への
反発に見る排除のかたち
——「子どもがかわいそう」を
めぐるポリティクス
- 第9章 モザイクとしての「障害者問題」
- 第10章 「ユニークフェイス」から
「見た目問題」へ
- 第11章 「民族」との向き合い方
——在日コリアンの歴史と
日本社会の対応
- 第12章 「復興災害」の空間と
多文化的現実
——21年目の被災地を
歩きなおす／見つめなおす
- 第13章 原爆問題について自由に
思考をめぐらすことの困難
- 第14章 原発事故による避難について
考えるために
——生活の再建をめぐる
ジレンマ